

# 参画だより

NO. 28

2006.7.10

弘前市民参画センター

**受講生の感想**  
佐藤：講座では「広報ひろさき」への男女共同参画記事の掲載を働きかけましたが、それが実現してたいへんうれしいです。

弘前市は昨年度、地域に男女共同参画の視点を広める実践者を養成する「男女共同参画推進活動講座」を開講し、受講した7名は約8カ月間にわたり、男女共同参画の視点で活動を企画・実践する方法を学びました。修了から4カ月近くが経過した5月16日、受講者と運営スタッフが参画センターに集合し、講座の感想やこれから活動などについて話し合いました。

# 男女共同参画 推進活動講座 を振り返って!!!



# 「学びから実践に！新たなスタート」

**福士**：一緒に勉強させていただいた期間は、私にとつて宝物になりました。いろいろな人とも出会え、本当にかけがえのない時間だったと心から感謝しています。

柴：私が所属している「弘前友の会」では、会員が持つていて子育ての知識を若い世代に伝えられないでいる、という状態が長く続いています。この講座を終えたときに、「自分から動かなきやだめだ」と強く感じました。自分が先頭に立つて、出前講座でもなんでもやってい

運営スタッフから  
**佐藤**：チラシ作りなどの具体的な作業を自分ですることが今までなかつたので、私にとつてもよい経験となりました。みなさんもそれぞれご活躍のようで、うれしく思いました。

**山谷**：完成した報告書をスリーパーバイザーの矢口悦子さんにお見せしたところ、すばらしい取り組みだとたいへん感激してくださいました。みなさんパソコンなどさまざま

工藤：これから実践活動をしていく上で、多様性をお互いに認め合う、という気持ちを大事にしてほしいと思います。広い視野で、「男女共同参画」という共通のテーマのもとにまたみなさんが活動できたらいいのではないかであります。



つています。その心残りを解消する機会もないままで忙しい毎日ですが、それを乗り越えればまた新しい視野が開けるのかな、と思つていま

**所長**：みなさん講座で学んだことを生かして各方面でご活躍のようですが、ご相談いただければ、われわれ職員も可能な限り、企画や事業の実施に協力していきます。弘前市の男女共同参画の拠点施設であるこの市民参画センターとの関わりは、今後も持ち続けてほしいと思います。

## 地域のたまり場をめざして

りの「ハウス 下山 るり子



作った動機は?  
以前、男女差別を感じさせ  
ない職場で働いていたけれ

リフォームやりサイクルで、工夫して作られている「らるごハウス」

感じていたの。仕事と家庭・子育てを両立させたいと考  
えて、子どもと接する機会も工夫したけれど、子どものた  
めには、やはり、父親か母親が家にいたほうが良いと判  
断し、結局自分が辞めたの。その経験を生かしたいと思  
つたから。

「らる」の由来は？  
「らる」とは音楽用語で、ゆるやかにかつ豊かにという意味。今まで現役で働いてきたけれど、50歳過ぎると少しずつ無理が利かなくなつる年齢でしょう。今までやつ

資金は?  
今は、お金があるとできる  
ことつていっぱいあるでし  
ょう。でも、資金をあまりか  
けないで、リサイクルやリフ  
ームとか、地元のものを使  
うなどして物を大事に活用  
しているの。らるごハウスに  
ある食器棚も母親の形見の  
桐の和ダンスを自分でリフ  
ームしているし、クロスや  
ランチョンマットも着物を  
リフームしたもの。壁掛け  
は廃材を利用して作ったの。

てきなことを生かしながら、少しでも人の役に立てることができればいいと思つた。でも、それって自分のためにもなつてゐるんだけどね。急がずゆつくり、豊かな人生を送りたいという願いをこめた名前なの。

私は考えたら、やってみよう  
と思うの。知人の協力もあ  
り、ワーケーションのみなさん  
の体験学習と地域のたまり  
場作りを兼ねて、石垣や花壇  
を作ったり、お昼ご飯をいつ  
しょに作って食べたりして  
います。4年前から、空いて  
いる畑を利用してもらい、施  
設のみなさんが自分達で食  
べるためにジャガイモをい  
つしょに植えています。いつ  
もここに作業しに来るとき  
は、手作りのケーキでおもて  
なししているのよ。

## 精神障害者小規模通所授産施設

来たら、ホッとするようなおもてなしをしたいの。  
今年は勉強の年。友達といつしょに月2回第2・4の木曜日に材料費として6百円いただいて、料理を作つておもてなしをしているの。無料のボランティアだけだと続かないと思うから。そして活動が大きくなつて、次の世代に受け継がれていくようになればいいなと思ってる。そんな夢をいっぱい持つてゐる。だから、みんなに夢を話す。すると必ず共感してくれる人が出でます。発信しなければ、来ないと思うの。

らるごハウスみたいなまり場が地域にいっぱいできるようになればいいなと思つています。

私は考えたら、やってみよう  
と思うの。知人の協力もあ  
り、ワークいすみのみなさん  
の体験学習と地域のたまり  
場作りを兼ねて、石垣や花壇  
を作つたり、お昼ご飯をいつ  
しょに作つて食べたりして  
います。4年前から、空いて  
いる畑を利用してもらい、施  
設のみなさんが自分達で食  
べるためのジャガイモをい  
つしょに植えています。いつ  
もここに作業しに来るとき  
は、手作りのケーキでおもて

## 精神障害者小規模通所授産施設

今後の抱負は?  
このらるごハウスで、子育て中のお母さんとかに、家庭の雰囲気の中で、郷土料理を味わってほしい。地産地消で、自分たちが作った旬の野菜やハーブを使って。ここに

### みんなで作った花壇や畠

# さんかくネットつどいの広場

## 救急救命法・音楽遊び



救急救命士のお話に、子育てに関わる  
参加者は注意深く聞き入っていた

弘前市の子育てサポートシステム「さんかくネット」主催による「さんかくネットつどいの広場」が今年も開催され、子育て中の家族へ交流の場や児童情報を提供しました。通算3度目の開催となつた5月22日は、弘前消防署から講師を招き、乳幼児の事故予防について保護者の意識向上を呼びかけました。講話では、乳幼児の体の構造や行動の特徴から起きやすい事故の例が示され、参加者は身近にある危険について再認識していました。訪れた人からは、実践による救命法の指導がわかりやす

子育て中の家族と子育てサポーターが、乳幼児の事故予防の講習や音楽遊びを体験したり、育児休業を取つている男性の育児体験談を聞いたりして、楽しく過ごしました。

## 「子育てに関わる参加者に情報いつぱい！」



## 音楽に合わせて体を動かす遊びを 楽しむ親子と指導する桜庭由美さん

くてよかつた」、「事故の具体的な事例や対処法が知りたい」などの感想が聞かれ、子どもたちを危険から守ろうとする意識の高さがうかがえました。

会場の一角では「弘前友の会」によるおやつの紹介や、家族みんなで協力して家事を行う暮らし方の提案がなされ、訪れた人の目を引いていました。



男性もどんどん育児休業を取つて  
くださいと富岡拓身さん

音楽遊びは続いて、今年4月から1年間育児休業を取得し、2人の子どもの世話をしている富岡拓身さんの育児体験談が披露され、子育ての苦労や喜びなどの話に、参加者は興味深く聞き入っていました。子育て中の男性へのアドバイスを求められると、富岡さんは「自分の場合、男性が育児休業をとつていい、ということで目立つていいが、特別家事・育児が得意というわけではなく、ごく普通のことだけではいるだけ。手抜きしないのがやつていい」と案外やつていいける男性が育休をとる、また、

美さんが車座になつた参加者の間を駆け回つて、歌に合わせて体を動かしたり、リズムをとつたりする遊びを紹介し、参加者は約一時間の音楽遊びを楽しみました。また、使われなくなつたり「コードー」を活用して合奏をするサークル「眠つてるリコーザー」お目覚め部のメンバーが「となりのトトロ」や「もののけ姫」の主題歌などを演奏し、会場を盛り上げました。

## 育児体験談・ボランティア



## 子どもたちとおもちゃづくりをする 「さくらボランティア」の学生

今年度の「つどいの広場」は9月23日、11月中旬にも実施する予定です。

ることに対する周囲の反応も  
まだまだ微妙なので、男性に  
もどんどん育児休業をとつて  
もらえるといいと思います」と  
エールを送りました。



ボランティアで参加協力してくださった「弘前友の会」と「リーダーお目覚め部

『弘前保健所管内精神障害者地域家族会』

～ いすみの会～  
**「障害者が生活しやすい社会、環境、福祉の実現にむけて」**

私たちの会の名称は、弘前保健所管内精神障害者地域家族会「いすみの会」です。

名称のごとく、精神に障害を持つ人々の家族が集まり、平成4年に結成しました。

一口にこころを病むと言っても様々ですが、統合失調症の人が主になっています。この病気も、他の病気と同じにきちんと医師の指導を受けていると決してこわい病気ではないのですが、「精神障害者はこわい」という偏見も多く、家族も、当事者も孤立しがちです。

目に見えない病気のため、家族の不安も一口では言い表すこともできません。そのような不安や悩みを打ち明けながら、お互いの将来に向け、また、親なきあとも、少しでも生きやすい社会、環境、福祉の実現にむけ手をつなぎ活動しています。

平成12年、症状が落ち着いた人たちの居場所として、小規模作業所「ワークいすみ」を家族会会員の努力と多くの善意を受けて立ち上げ、製品化した廃油せっけん、手芸品などなどを販売してきました。

その「ワークいすみ」は、平成17年福祉法人小規模作業所として独立し家族会の手を離れました。

いすみの会は今また、多くの賛助会員の応援を受けながら、新たな一步を歩き始めています。



いすみの会では、一般・賛助会員を募集しています  
 連絡先: いすみの会 会長 坂本美智

弘前市大字堅田5丁目15-21

0172-27-0727

入会申込用紙は、市民参画センターにもあります



す。ま。し。か。第。画。開。の。後。り。  
 ま。つ。た。新。れ。1。セ。催。先。頃。の。ま。あ。  
 つ。り。の。市。ま。回。ン。さ。日。で。暑。し。じ。  
 で。の。し。実。タ。れ。す。さ。た。い。が。  
 に。誕。た。施。1。る。10。が。梅。梅。梅。  
 し。記。生。委。ま。第。月。に。雨。季。季。季。  
 た。念。も。員。つ。第。月。に。晴。節。節。節。  
 い。す。あ。会。り。3。28。な。れ。に。れ。に。  
 む。で。べ。り。が。回。日。る。れ。に。この。な。

編集後記

**弘前市民参画センター**  
**編集 メディア部会**

〒036-8355

弘前市元寺町1-13

Tel 0172-31-2500 Fax 0172-36-1822

開館時間 9:00~22:00

休館日 12月28日~1月3日・臨時休館日

**本の紹介**

著書名

『生協の白石さん』

『愛は売って

いないのですか？』

著者 白石昌則  
 東京農工大学の  
 学生の皆さん  
 発行 株式会社講談社

「そろそろ本の紹介の原稿の時期だなあ」と思っていた私の目にとまったのが、この「生協の白石さん」。まるで、「読んでくれ～」と言わんばかりに、我が家のソファーに座っていた本。どうやら、連休に来た娘が持ってきたものらしい。ペラペラとページを進めていくうちに、ほのぼのというか、ほほえましいというか、この気持ちをなんと表現したらしいのだろう。自然に笑みがこぼれるような感じになる。

「気がつけば大ベストセラー！」と本の帯に赤い大きな字で印刷されているので、「ここで、いまさら紹介すべき本ではないのかもしれない。」と思いつつ、他に、候補の本があったにもかかわらず、「でも、これだっ！」って思ってしまった。

ストーリーがあるわけでもなく、興味深い事がらを題材にしているわけでもない。東京農工大学学生協工学部店の「ひとことカード」のやりとりをまとめただけの本なのだが、学生の質問や要望に対する白石さんの回答がなかなかのもので、顔の見えない白石さんにとても親近感を覚え、勝手に白石さん像を描いてみる。

「生協の白石さん」の仕事は、旅行の相談や添乗、免許取得などの講座やパソコン修理の受付、日用品や書籍販売などなど、ひとことカードは業務の一部に過ぎないのだが手を抜いていない。生協職員として、顧客である学生の「ニーズ」に懸命に答えようとしている姿がすばらしい。それは当たり前のことなのかもしれないが、その当たり前がなかなか存在しなくなっているのが現在である。

当初はインターネット上で話題になった白石さんとのこと。ご本人が「最後に」で「このような事態となり、改めて驚いています。私を取り巻くさまざまな環境、そのどれ一つでも欠けていたら起こりえなかつたこと。」と述べている。そして、「この期に及んでも尚、この騒動はひとりの人間を陥れる壮大な“ドッキリ”なのでは、という不安に駆られます。」と最後まで読者を楽しませてくれる。

「愛は売っていないのですか？」と質問されたらなんと答えるだろう。白石さんは、「どうやら、愛は非売品のようです。もし、どこかで販売していたとしたら、それは何かの罠かと思われます。くれぐれもご注意下さい。」と答えている。脱帽！

by Komori

**お知らせ**

開館時間が変更になります

8月1日(火)~4日(金) 開館時間 9:00~5:00

ねぶた運行のため

臨時休館いたします

8月21日(月)~23日(水)

センター内設備点検等のため

ひとにやさしい社会(まち)推進セミナー

「ナビでつくろう私の人生」を開催

9月2日(土)13:30~17:10

問合先：弘前市民参画センター